

報道関係者 各位

2023年9月13日

ジャパン・ハウス ロンドン

北海道平取町二風谷におけるアイヌ文化の継承と保存、発展を担う

現代の人々に焦点を当てた英国初の展覧会

『Ainu Stories: Contemporary Lives by the Saru River』展

2023年11月16日(木) – 2024年4月21日(日)

ジャパン・ハウス ロンドン地下ギャラリー／1階ショーウィンドウ・展示ブース



The *Cipsanke* boat festival in Nibutani

Image: Ogawa Masaki

ジャパン・ハウス ロンドンは、2023年11月16日(木)から2024年4月21日(日)まで、『Ainu Stories: Contemporary Lives by the Saru River』展を開催します。本展では、北海道沙流郡平取町二風谷でアイヌ文化の継承に携わる現代の担い手たちに焦点を当て、言語、環境、工芸、観光、歌、舞踊、食などをテーマに、アイヌ文化を未来につなげるための今日的な取り組みを紹介するほか、平取町の歴史、そして英国と平取町の歴史的な交流についても取り上げます。

北海道の日高地方を流れる沙流川の中流域に位置する平取町の二風谷は、歴史的にアイヌ人口の割合が多く、各地のアイヌコタン(集落)の中でもアイヌの伝統が色濃く残る地域として知られており、アイヌ文化を継承する活動が盛んに行われています。豊かな自然に囲まれた沙流川地域で受け継がれてきた

文化を支えるために大きな役割を果たしたのが、アイヌ語やアイヌ文化の保存・継承に生涯を捧げた萱野茂（1926-2006）でした。二風谷で生まれ育った萱野は、アイヌ語を守るためアイヌ語辞典を刊行し、多くのアイヌ民具を収集してきました。そうした活動の成果は、1972年に北海道ウタリ協会（当時）が設立した二風谷アイヌ文化資料館につながっていきました。また、アイヌ民族で初めての国会議員となり1997年の「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律（略称アイヌ文化振興法）」の成立にも力を尽くしました。アイヌ文化を絶やさず次世代に伝える活動を生涯にわたり精力的に続けた萱野の想いや精神は、時を経ても今もなお二風谷で暮らす人々に脈々と受け継がれています。

『Ainu Stories: Contemporary Lives by the Saru River』展は、ジャパン・ハウス ロンドンと平取町二風谷地域の人々との協働で企画構成を手掛けました。本展では、平取町二風谷に受け継がれるアイヌ文化を継承していくことの意義と今日的な重要性や、二風谷に暮らす人々と周辺環境との関わりを紐解くと共に、平取町とゆかりの深い英国人たちの残した業績・遺産を通して二風谷の歴史的背景を辿ります。本展は、現代の日本におけるアイヌ文化の重要性に光を当てつつ、二風谷で連綿と受け継がれてきたアイヌ文化の「今」を英国で初めて紹介する貴重な機会となります。

本展は、二風谷でアイヌ文化の継承に関わる活動をしている人々の声を収めたインタビュー映像12本を主軸に4つの章で構成します。各章は相互に関連し合っているため、明確な順路は設けず、鑑賞者は自由に会場内を行き来することができ、多角的な視点からアイヌ文化に触れることができます。また、アイヌの伝統的な民具や工芸品、資料、貴重な記録写真や映像なども展示し、アイヌ文化の今の姿を歴史的背景にも触れながら視覚的かつ聴覚的なアプローチで紹介します。

本展を構成する4つの章

言語

ユネスコが絶滅危機言語と認定しているアイヌ語。平取町でアイヌ文化の継承に携わる人々を中心に、この独特な言語の保持・継承を目的に献身的な普及活動に取り組んでいます。本展では、二風谷で今日的行われているアイヌ語・アイヌ口承文芸の継承活動について紹介します。

社会と環境産業

本章では、アイヌ文化環境保全やアイヌの食文化復興に向けた取り組み、そして、沙流川流域の大規模な開発事業により建設された平取ダム、二風谷ダムをめぐり、文化的景観の保全のために尽力する二風谷の人々とその再生活動の取り組みについて紹介します。

歌・踊り、織物

本章では、展示と映像を通して、アイヌ文化においての歌と踊りに焦点を当てます。儀式などで着用される美しい刺繍が施されたアイヌの着物は、織物や工芸品などのアイヌ文化の物語を伝えています。

木彫りと観光

二風谷は、もともと工芸の盛んな地域として知られていましたが、戦後の高度経済成長期の観光ブームを契機に観光地としても知られるようになり、観光土産の定番としてさまざまな木彫が作られるようになりました。現在、「二風谷イタ（木製の平たいお盆）」と「二風谷アットゥシ（樹皮を加工して作られる平織りの反物）」の2品目が北海道で唯一の「伝統的工芸品」として国により選定されています。本章では、大英博物館で作品が常設展示されるなど国内外で高い評価を得ている、木彫師の貝澤徹が本展のために制作した作品をはじめ、さまざまなアイヌの工芸品を展示します。

さらに本展では、平取町にゆかりのある英国人たちが残した膨大な業績を紐解きます。英国聖公会宣教師のジョン・バチラーは、平取町にしばらくの間滞在し、アイヌの人々の生活改善や教育活動に長年にわたり献身的に尽くすかわら、アイヌ語の研究にも情熱を注ぎ、世界で初めてアイヌ語、英語、日本語の三対辞書を出版しました。19世紀に活躍した女性旅行家であり英国王立地理学会初の女性会員であったイザベラ・バードは、日本旅行の最終目的地として平取に訪れ、アイヌコタンの首長宅に滞在しながらアイヌの人々との交流を深め、人々の暮らしや地域、文化についての貴重な情報を詳細に記録しました。また、二風谷地域の人々から敬愛されていたスコットランド人の医師ニール・ゴードン・マンローは、二風谷に移り住み診療所を開設し、その生涯を二風谷での医療奉仕活動に捧げました。

「本展は、平取町の人々との協働企画により、現代におけるアイヌの文化継承について、英国で初めて紹介する貴重な機会となります。アイヌをテーマにした展示において、これまで多くの美術館が過去に焦点を当て、歴史的な民俗資料などで展示が構成される傾向にありましたが、ジャパン・ハウス ロンドンで開催するこの展覧会は、これまでとは一線を画した展示を目指し、本展のために特別に制作された独自の素材を通して、平取地域（主に二風谷）におけるアイヌ文化が今日どのように息づいているかを、肌で感じられるような形で紹介します。」

——サイモン・ライト（ジャパン・ハウス ロンドン企画局長）

会期中には、アイヌ舞踊、言語、料理、工芸、文化保全政策などをテーマに、実演やワークショップの他、視覚や聴覚でも楽しむことのできるパフォーマンスやトークなどさまざまなイベントを開催します。各イベントは、平取町二風谷アイヌ語教室、平取アイヌ文化保存会、二風谷民芸組合など、平取町でアイヌ文化の継承に携わるさまざまな方々を迎え、11月、1月、2月、3月に実施する予定です。詳細については、公式ウェブサイトやSNS等で随時お知らせいたします。

一般公開に先立ちまして、プレス向け内覧会を 2023 年 11 月 15 日（水）午前9時～12時に開催いたします。詳細は改めてご案内いたします。

【開催概要】

展覧会名：『Ainu Stories: Contemporary Lives by the Saru River』展
会 期：2023 年 11 月 16 日（木）－2024 年 4 月 21 日（日）
場 所：ジャパン・ハウス ロンドン（101-111 Kensington High Street, London, W8 5SA）
時 間：月曜日～土曜日 | 午前 10 時～午後 8 時
日曜日・祝日 | 午後 12 時～午後 6 時
入 場：無料

【広報用画像】

[こちら](#)からダウンロードいただけます。

【ジャパン・ハウスについて】

ジャパン・ハウスは、日本の多様な魅力や政策・取組・立場を発信することにより、日本への理解と共感の裾野を広げることを目的に、外務省により世界の 3 都市（サンパウロ・ロンドン・ロサンゼルス）に設置された対外発信拠点です。

ジャパン・ハウス ロンドンは、日本文化への関心が高まる欧州の拠点として、ロンドン市内の文化的、商業的建造物が多く所在するエリアの目抜き通りケンジントン・ハイストリートに 2018 年 6 月に開館しました。アールデコ調の歴史的建造物の中の 3 フロアにわたり、展示ギャラリー、多目的スペース、ライブラリー、レストラン、カフェ、ショップ、観光案内コーナーを備えた複合施設として、アート、デザイン、食、建築、テクノロジーなど日本の多様な魅力を通して、真の日本との出会いを現地の人々に提供しています。

[公式ウェブサイト](#)

[Facebook](#)

[Instagram](#)

[Twitter](#)

[ニュースレターへの登録](#)

【本展に関するお問い合わせ先】

ジャパン・ハウス ロンドン事務局 Marketing & Communications 部

担当：飛驒 香生里

E-mail：Kaori.Hida@japanhouselondon.uk